

イチイ

(オンコ)

Taxus cuspidate イチイ科 イチイ属

北海道で庭木として最も多く植えられ、親しまれているイチイは、中国東北部、朝鮮半島、ロシア沿海地方、千島列島、サハリンに分布し、日本では北海道から鹿児島県の高隈山まで自生し、特に東北から北海道に多く生育しています。常緑針葉樹の高木で、大きいものは高さ 25m、直径 2m に達します。

イチイは全国に分布し広く利用されてきたことから、地方によって呼び名が異なり、歌壇に出てくる「アララギ」、北海道で使われている「オンコ」、記念樹や保存木に付けられている「水松」などみんなイチイのことですが語源がはつきりしないものが多いようです。

落ち數ける あららぎの実に 雪浅し 村田耕春

北海道ではイチイよりオンコと呼ぶ方がとおりよく、アイヌ語と思われる事も多いですが、アイヌ語ではラルマニ、あるいはララマニ、クネニ(弓を作る木)で、東北地方などで使われていたオンコ、オッコ、オッコノキなどが北海道にもたらされたと考えられています。学名の *Taxus* はギリシャ語の弓(*taxos*)に由来します。

イチイの語源は、この木で笏(しゃく)を作り仁徳天皇に献上したところ、その木に笏をつくる高貴な木「正一位」を授けられたと言われることに由来し、今でも笏はイチイで作られ天皇即位のたびに献上されているそうです。

イチイは針葉樹では珍しく雌雄異株で、4月下旬から5月上旬に前年枝の葉裏の付け根に咲きます。雄花は黄褐色で花粉が飛ぶので気づきますが、雌花は緑色で小さくほど注意しないとわかりません。雌株の果実は肥大して杯状となった仮種皮の中に種があり、秋には仮種皮が赤く色づきます。北海道にはまれに仮種皮が黄色に熟す「キミノオノコ」(*var.luteo-baccata*)があります。イチイに似たキャラボク(*var.nana*)はイチイの変種とされ高さ 1~2m程度で幹は直立せず、根元から枝分かれし横に広がります。日本海側の多雪地帯に自生し鳥取県大山には群生地があり天然記念物となっています。これら3種とも仮種皮は甘くて食べられますが、種子にはタキシンという有毒なアルカロイドが含まれるので注意を要します。

イチイは耐陰性の強い樹種で、母樹の下にも稚樹が発生

しますが群落をつくることは少なく、まとまった林としては屈斜路湖湖畔や浜中町茶内などと焼尻島に矮性の林が見られる程度で、多くは針広混交林の中に低木として生育していますがまれに高木や巨木が単木的にみられます。

イチイは生長が遅く年輪幅が狭く、材は緻密で木目が直で狂いが少ないので特徴です。心材は赤味が強く美しく辺材は白色で狭く、その境は明瞭です。細工が容易で、光沢があることから床柱はじめ建築材、家具材、器具材、鉛筆材、彫刻材としては飛驒の「一位の一刀彫」が有名、古くは弓材など用途がきわめて広く、剪定や刈り込みに強く庭木や生垣、盆栽に適しトピアリーにもよく使われています。

高貴なイチイはサカキやヒサカキが自生しない北海道ではその代用として小枝が玉串など神事に用いられ、神社境内に植えられ「おみくじの結び木」になっています。

イチイを市町村の木に指定している自治体も多く北海道では恵庭市、北見市、函館市など 28 市町村におよび生活と深く関わっていることが伺われます。

北海道の巨樹・名木として選定された樹種では、ハルニレについて二番目に多く全道各地に指定樹木として保護されています。中でも 2002 年に道の天然記念物となった芦別の「黄金の水松」は幹周り 613cm、樹齢 1700 年といわれ重厚な樹姿は圧巻です。市内で巨木を見るには豊平区月寒の八紘学園資料館の庭に全道から集められた巨木が、巨石とともに堂々たる風格でそびえ立っています。また、清田区の平岡樹芸センターには約 3000 本の刈り込みが植えられています。(M.S.)

一位の実 追憶甘く ひろがりぬ 谷川悦子

1月の園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽に問い合わせください。

新春特集 寅にちなんだ名の植物

【カクトラノオ】 *Physostegia virginiana*

シソ科。草丈 1m 前後。茎は直立して分枝せず、ほふく茎を出して増え、日当たりよく排水がよければ寒さに強く育てやすい。花期は 7~9 月と長い。花は紅、淡紅、白色など総状花序に密につけ、花壇、切花向き。和名は茎が四角なことと花穂の形からつけられたもの。



【トラノオジソ】 (エゴマ) *Perilla frutescens*

シソ科。東南アジア原産。日本での栽培の歴史は古く、昔は油を搾っていたが、現在ほとんど見られなくなった。葉は対生で表面にまばらに毛が生え、シソの香りがあり、花は秋。別名は穂の形からつけられたもの。



【トラノオシダ】 (チャセンシダ) *Asplenium*

チャセンシダ科。北半球の温帯を中心に、日本では全国に分布。10~30cm、幅 1~2cm、常緑の多年草。和名は葉形を虎の尾に見立てたもの。



【トラファナナス】 *Vriesea splendens*

パイナップル科フリーーゼア属。南米原産フリーーゼアの中で葉も花も最も美しい種類。葉裏に暗緑色地に黒紫色の不規則な虎斑模様が見られる。花茎は直立し朱色の苞の脇から黄色の花をつける。



【トラヒメアナナス】 *Cryptanthus zonatus*

パイナップル科クリプタンツス属。ブラジル原産。葉数は少ないが長く、表面は暗緑色で、黄白色、黄褐色の横斑が入り波状縁で裏面は白色の鱗片に覆われる。花は白色。



【トランオ】 (サンセベリア、アツバチトセラン)

Sansevieria trifasciata

リュウゼツラン科。熱帯アフリカ原産。数枚の葉が叢生し直立性。革質で厚く、長さ 1m 前後、幅 5~6cm。先端は尖り両面に淡緑色地に濃緑色の横縞の虎斑が入ることからトランオと呼ばれる。葉の縁に黄色斑が入るローレンティー種(フクリンチトセラン)に次いで多く栽培される。葉が株元で四方に広がる矮生種ハーニーなどの変異種がある。



緑の相談受付 10:00~12:00、13:00~16:00

☆豊平公園

811-9370 月曜以外毎日

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

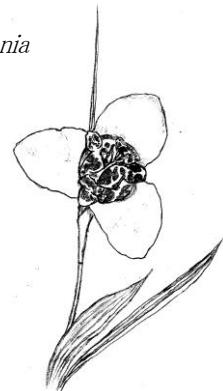
【トラフセンネンボク】 *Dracaena goldieana*

リュウゼツラン科ドラセナ属。ギニア原産の常緑低木。高さ 2m くらいで葉長 10~20cm、幅 7~12cm の卵形で光沢のある緑色地に鮮緑色や銀灰色の虎斑模様の入った観葉植物で、やや寒さに弱く、最低 15°C ほしい。



【トラユリ】 (タイガーフラワー) *Tigridia pavonia*

アヤメ科トラユリ属。メキシコ、グアテマラに自生。春植え球根。剣葉で茎は 1 本ままの 50~60cm。先端に 1~4 花をつけ、朝開き夜閉じる 1 日花。花の中心部、外弁の下半部と内弁の内側全面に、黄色地に赤褐色の虎斑模様が美しい。学名のチグリジアはラテン語のチグリス(虎)に由来。



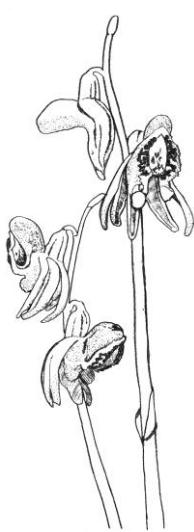
【トランオモミ】 (ハリモミ) *Picea polita*

マツ科トウヒ属。本州中部の低山帯から亜高山帯に自生する針葉樹。エゾマツの仲間。北海道にはドイツトウヒが公園や防雪林に植えられている。和名は、英語のタイガーテイルの直訳。



【トラキチラン】 *Epipogium aphyllum*

ラン科。高山、深山の樹林内に稀に見られる多年生腐生(菌根)植物。高さ 15cm 程度の白い肉質の花茎に、普通のランと異なり唇弁を上にして横向きに淡紫色の花を数個咲かせる。和名は発見者の神山虎吉により。



【トラヒメバショウ】 *Calathea zebrina*

クズウコン科。ブラジル原産の丈 1m くらいの多年草。葉の上面は暗緑色でビロード状の光沢があり羽状の美しい虎斑が特徴。



◆冬の害虫防除

半年雪に囲まれて暮らす北国では室内の鉢花や観葉植物の緑が心を癒してくれます。しかし、室内は一般的に温度が高く、乾燥気味で日照も弱く植物にとって生育条件は決して良くはありません。このような環境の中で害虫の発生を最小限にして健全に育てるためには適切な手当をしなければなりません。下記は鉢物を加害する主な害虫とその防除法です。

① アブラムシ

1~2mm の大きさで、多数群がって口針を植物の葉などに刺し込んで養分を吸汁加害する昆虫で、肉眼で確認することができます。繁殖力が強く蕾、花、芽、茎、葉裏などに寄生し短時間で爆発的に増えます。吸汁加害と同時にウィルス病を媒介し大きな被害をもたらします。



寄生植物 雜食性でほとんどの植物に寄生します。

防除方法 比較的防除しやすく、「アブラムシ」と記載された粒剤を鉢土上に、スプレー剤などを全体に散布します。

② カイガラムシ

2mm 前後の大きさで、綿状のものに包まれたワタカイガラムシ、白い粉を被ったコナカイガラムシ、貝のような殻を被ったカタカイガラムシなど多くの種類があります。成虫は肉眼で確認することができます。吸汁害虫で、室内では常に産卵を繰り返し、被害を与えます。多く寄生した場合、その排泄物でベタつき、すす病がつき黒くになります。

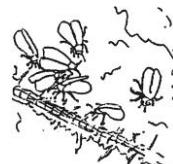


寄生植物 雜食性で多くの植物に寄生しますが、洋ラン類や観葉植物に特に発生が多いようです。

防除方法 綿や殻の上から薬剤を散布しても効果が薄いので、見えるものは歯ブラシなどで搔き落とし、カイガラムシ用の薬剤を7~10日おきに3回ほど散布します。

③ オンシツコナジラミ

成虫、幼虫ともに葉の裏に多数寄生し、成虫は体長1~1.5mmくらいの白い蛾のような4枚羽の昆虫です。葉に触れるとパッと舞い上がります。20°Cでは卵から成虫になるまでは28日ほどで、繁殖力は大変旺盛です。幼虫は盛んに吸汁加害します。多く発生するとすす病がつき葉が黒くなります。



寄生植物 ハイビスカス、アザレア、フクシア、ポインセチアや洋ラン、観葉植物などに多く見られます。

防除方法 通常の殺虫剤では効果が小さく、コナジラミ用と記載のある薬剤を7~10日おきに3回ほど散布します。

④ ハダニ

大きさは0.3~0.5mm程度で、肉眼では確認困難です。クモに近いダニ目の総称で、種類が多く雑食性で、多くの植物に寄生し、吸汁加害します。高温(25~30°C)乾燥で旺盛な繁殖をします。加害された葉は白くカスリ状に色素が抜け、また被害状態は生育障害を起こし萎縮や奇形葉になります。密度が高まるとクモの巣のような糸を張り巡らせ、その上をハダニの移動がひかに視認することができます。こうなると駆除するのは困難で、何よりも初期発生の段階での早期防除が肝心です。



寄生植物 ほとんどの植物に寄生します。

防除方法 防除は比較的困難ですが、常時散水や霧吹きなどを行い発生の原因を除きます。また、通常の殺虫剤は効果がなく、2~3種類の殺ダニ剤を7日おきに3回程度散布します。

⑤ コバエ

4~5mmくらいの黒いハエで、鉢中の腐葉土や有機肥料などを餌にして室内の鉢土の中で繁殖を繰り返し、部屋の中を飛び回ります。特に植物に害を与えることはないようですが、目の前をふらふらして不愉快ですので「不快害虫」と呼ばれます。

防除方法 今は鉢をビニール袋で包み、中に殺虫スプレーを何度か散布します。

1月～2月上旬の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 011-811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
シンビジウムの育て方	1月 24日 (日)	13:30～	1月 11日～	無料
花の種まき実践教室	2月 20日 (土)	〃	2月 11日～	材料実費
展示会				
アザレア展	2/16 (火)～28 (日)	入場無料		
自然観察スライド上映会				
山野草スライド上映会	2月 14日 (日)	13:30～	1月 11日～	無料

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 011-772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

園芸教室	日	時間	申込受付開始	参加費
洋ランの育て方	1月 30日 (土)	13:00	1月 11日～	130円
アザレアの育て方	2月 13日 (土)	10:30	〃	〃
展示会				
みかんなどの柑橘展	1/13 (水)～2/7 (日)		入館料 130円	
市民ラン展	1/26 (火)～31 (日)		〃	
アザレア展	2/9 (火)～28 (日)		〃	

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト <http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中 ※

冬のまちに
スノーキャンドルの灯りをともそう！
2010



2010.1.16 (土)

16:30 点灯予定

このイベントは、参加してくれるみなさんが色々なメンバーで集まり、近くの「公園」やその他の場所で、みんなで「スノーキャンドル（雪で作った行燈の中にロウソク）」を作り、同じ日の同じ時刻に、灯りをともそうというものです。2003年の開始から8回目となる2010年は『2010.1.16／16:30』です。

参加対象は、公園を管理してくれている皆さんはもちろん、町内会・子ども会など、学校・PTAなど、市民活動団体・サークル・なかよしグループなど・・・どんなかたちでもかまいません。

近くの「公園」やその他の場所で、みんなで「スノーキャンドル」に灯りをともしてみませんか。

～参加申し込み・お問い合わせは～

◆◆冬のまちスノーキャンドル実行委員会◆◆

URL http://park.geocities.jp/sapporo_cndl/e-mail sapporo_cndl@yahoo.co.jp (携帯メールからもOK!)

<事務局> NPO法人 公園ねっとわーく

TEL 090-8630-7737